

地理歴史科（地理総合）学習指導案

指導者

1 履修単位数 2 単位

2 実施日時 令和6（2024）年11月 日（ ） 第 時限

3 学級 年 組（ 名）

4 使用教科書 地理総合（東京書籍）
新詳高等地図（帝国書院）

5 単元名 生活文化と産業

6 単元（題材）設定の理由

＜生徒観＞

本学級は、素直で真面目な生徒が多く、落ち着いた雰囲気で授業に取り組んでいる。授業中の発問に対して積極的に答える生徒もあり、意欲的な姿勢がうかがえる。これまでの授業で、地理的な見方・考え方を働かせながら、世界の地形や気候、文化について理解を深めてきた。一方で、分野によっては苦手意識を持っている生徒も見受けられるため、様々な資料の読み取りを通して苦手を克服していく必要がある。

＜教材観＞

さまざまな産業に関する基本的な事象について、地域・国の発展の状況によりその特徴に違いがあることを理解する単元である。その背景や理由の考察を促すよう、本教材では、写真や地図等の複数の資料を活用したり、ゲーム形式のワークシートを活用したりするなどし、理解を深めるようとする。

＜指導観＞

さまざまな産業に関する写真や地図等を活用し、資料を読み取りまとめる基礎的な知識・技能の習得を促したい。補助資料としてゲーム形式のワークシートを活用し、生徒同士で説明し合ったり、意見を出し合ったりする活動を取り入れることで、主体的に表現する力を身に付けさせたい。

7 単元（題材）の目標

- （1）さまざまな産業とそれらの分布について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付ける。
- （2）さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。
- （3）技術の発展やグローバル化等によってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとする態度を養う。

単元の基軸となる問い

世界の人々の生活文化とさまざまな産業の特徴の違いは何が原因なのだろう？

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
さまざまな産業とそれらの分布について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けています。	さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しています。	技術の発展やグローバル化等によってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしています。

9 指導と評価の計画 単元名 生活文化と産業 全5時間

第一次 食生活と農業の分布・・・【○知 ●思】

第二次 工業立地の変化・・・【○知 ●思】(本時 2/2)

第三次 商業立地と人々の生活・・・【●知 ●思】

第四次 情報産業の発達と生活文化の変化・・・【○知 ●態】

単元の指導計画 (○ … 「評定に用いる評価」、● … 「学習改善につなげる評価」)

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 1時間扱	【基軸となる問い合わせ】世界の人々の生活文化とさまざまな産業の特徴の違いは何が原因なのだろう?				
	【第一次の問い合わせ】人々の食生活は、気候だけで決まるのだろうか?		●		(評価資料) ワークシート、発表 ・自然環境の面から、食生活の地域差について考察し、経済発展にともない、地域ごとの農業形態の違いが生じることを適切にまとめている。 ・宗教上の理由や、食文化の均質化について理解している。
第二次 2時間扱 ★本時 2/2	【第二次の問い合わせ】工場は、どんな理由でどんな場所に建つのか?	○			(評価資料) ワークシート グループワーク、発表 ・各工業立地の特徴を理解し、代表例を適切に分類している。 ・ルールに基づいて協働し、主体的に行動している。また、資料を適切に分析し、賃金の安い国について考察している。 ・付加価値の高い産業について、ワークシートに適切にまとめている。
	・工業立地の特徴について理解し、グループワークを行いワークシートにまとめる。 ・「工場建設ゲーム」に取り組むことで理解を深め、労働集約的な工業の立地が移動する理由について資料を用いて考察する。 ・先進国で行われている工業について、ワークシートにまとめる。	○	●		

第三次 1時間扱	【第三次の問い合わせ】商業の形態によって立地にどのような違いがあるのだろうか？		
	・商業の立地の違いについて、資料を読み取り、理解する。	●	・商業形態の違いにより、販売するものや、商圏、立地場所に違いが生じることについて資料を読み取り、理解している。 ・私たちの生活の中にインターネット販売が急速に普及していることを考察している。
第四次 1時間扱	【第四次の問い合わせ】情報産業の発展によって、世界はどのように変化しているのだろうか？		
	・通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解する。 ・サテライトオフィスやテレワークの発展における、現代社会の多様な働き方について考察する。	○	・「IoT」や「AI」の普及による、産業の急速な変化について理解している。 ・私たちの住む地域を例にしながら、これからの社会の在り方について主体的に考え、意見をもとうとしている。

10 本時の指導目標

一人一台端末を活用し、工場の位置を画面上に示すことで、工場立地の特徴について関心を高める。「工場建設ゲーム」のルールに基づいて協働し、主体的に活動する。資料を適切に分析し、賃金の安い国について多面的に考察するとともに、先進国では、付加価値の高い産業や知識産業に特化していることについても理解する。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
【単元の基軸となる問い合わせ】世界の人々の生活文化とさまざまな産業の特徴の違いは何が原因なのだろう？				
導入 5分	【本時の問い合わせ】工場は、どんな理由でどんな場所に建つのか？			
展開① 25分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習を「Kahoot！」で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Kahoot！」を活用して本時の学習のきっかけづくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Kahoot！」を用いて解答を導き出している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> Google Map を用いて、徳島県における清涼飲料水工場と四国の製紙工場の位置を確認する。 グループで、「工場建設ゲーム」を行い、工業立地の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場指向型工業と原料指向型工業の例を身近な地域を取り上げて確認させる。 ルールを理解させ、工場立地の特徴を踏まえて行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を適切に活用し、工場の位置を画面上に示している。 ルールに基づいて、主体的に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2 グループワーク

展開 ② 15 分	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を活用して、中国とタイとの賃金の変化を資料から分析し、労働力指向型工業は賃金の安い新興工業国へ移動し、その場所も時代によって変化していることを理解する。 先進国で行われている工業を予想し、その特徴について具体例を参考にワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国は経済成長とともに賃金が上昇し、賃金の安い国が変化していくことを考察させる。 付加価値の高い産業や知識産業に特化していることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を適切に分析し、賃金の安い国について多面的・多角的に考察している。 付加価値の高い産業について、ワークシートに適切にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 1 ワークシート 1
まとめ 5 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習振り返り、考えたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに対する自己評価をさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 1

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【知識・技能】

A	十分満足できる	各工業立地の特徴を理解し、代表例を適切に分類しており、さらに付加価値の高い産業について考察している。
B	おおむね満足できる	各工業立地の特徴を理解し、代表例を適切に分類している。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	代表例の分類は、考え方を示したり、適宜ヒントを与えたたりするなどして、解答を導きやすくする。

【思考・判断・表現】

A	十分満足できる	各工業立地の特徴を理解した上で、資料を適切に分析し、賃金の安い国について考察している。
B	おおむね満足できる	資料を適切に分析し、賃金の安い国について考察している。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	机間指導を通して、資料を読み取る方法を助言し、分析を補助する。